そこに声があれば

～今　未来に～

脚本　丸尾聡

登場人物

コイズミ　男

マサト　松本

ユウスケ　山口みさ子

カズミ　ヨルゲン・フリードネス

ゆあ　「証言者」の方々

栗平　ほか大勢の人々

岩佐幹三（いわさみきそう）　＊複数の役を一人が兼ねても良い。初演は女性13名、男性5名で演じた。

母

S1

＊は初演時（４０分版）の演出メモ。照明や音響や映像の指定があるが、なに、そんなものはなくても、ただ台詞を口に出して読み、聞くだけで、何かが生まれると思っている。

＊音楽

ほぼ何もない空間に椅子だけが並んでいて、出演者たちが座っている。あるいはこれから座る。やがて。

＊学生が模擬発表の準備をする、「証言者たち」を迎え入れる、といった体で椅子を並べた。証言者たちが現れ、その後は劇の最後まである時は、学生たちを見守り、ある時は話しかけるようにした。

S2

1　ふたたび被爆者をつくらないために。

2（証言者たち）　ふたたび被爆者をつくらないために。

3　私たちはどうすればいいのだろう。

＊映像　そこに声があれば　今、未来に

＊映像をかき消すように、戦闘機の音。

飛行機の音。プロジェクターなどで「そこに声があれば　いま未来に」と映し出されると良。学生たち四人が現れる。

4

１９４５年、８月６日午前８時１５分、広島市の上空約６００メートルで、三日後の９日午前１１時２分、長崎市の上空約５００メートルで、アメリカ軍が投下した原子爆弾がさく裂した。（原爆の音などが入ると良）

＊衝撃音的なのを使用。

コイズミ　岩佐幹三さんは、広島の爆心地から約１・２キロメートルの自宅で被爆しました。

岩佐　十六歳の夏。秋には陸軍航空士官学校受験予定の軍国少年だった。その日は朝から暑く川に泳ぎに行こうかな・・・と思いながら、庭先の半坪ほどの畑に植えたカボチャに雌花がついていないか探していた。そのと

き、北の方から聞きなれたB-29と違った爆音を聞いた。「まだ日本には飛行機があるんじゃ！」と思ったとたん、後頭部に「ガーン」という強い衝撃を受け、地面に叩きつけられた。一瞬、バットで殴りつけられたと思い、逃げようとした。ところが立ちあがろうとしても上から何か強い力で押さえつけられ立つことができない。目の前は、自分の鼻先も見えないほど真っ暗。必死になって這っていったら材木らしきものが手に触った。「おかしいのう・・・」と思っているうちに、黒いほこりのようなものが立ち昇っていってあたりはだんだん薄れ、明るくなってきた。最初に目に飛び込んできたものは瓦礫と化した街の風景と、いつもは街が遮っていて見えない、比治山（ひじやま）だった。そして倒壊した家屋のあちこちで火の手が上がっている。一瞬にしてまちが消えていた。なにがおこったのかさっぱりわからなかった。

コイズミ　原子爆弾がそれまでの兵器と比較にならない特徴の一つが、５千度という強い熱線を出し、秒速３０５メートルもの爆風を起こすことです。

岩佐　自分の家もぺしゃんこになっていた。すぐ気がついたのは、倒れた家の下に母がいることだった。

「お母さん！」

母　「ここよ」

岩佐　「あ、生きとる」

材木の山を乗り越えて、屋根瓦をはがし、土壁を手で掘ったが、大きな梁がどかっと乗っかり行く手をはばんでいる。わずか一メートルくらい先に倒れて、目のあたりから血を流している母の姿が見えた。

「こちらからはもう進めんのんじゃけど、動けんね。」

母　「左肩を押さえているものをどけてくれんと動けんよ。鋸か梃子を持ってきてどけてくれんね」

岩佐　家がつぶれているのだから、そんな道具は探しようがない。そのとき、逃げてきたらしい近所の四人家族が通りかかった。手伝って欲しいと頼んだが、

男　「それどころじゃなーわ、こっちだかて大変なんじゃけん・・・」

岩佐　と立ち去ってしまった。すでにまち全体が燃え上がっていて、火の手はますます近づき火の粉が降り注いできていた。気が気でなく、動転していた私は母にとんでもないことを言った。

「もうだめじゃ。先に父さんのところへ行ってくれんさい。ぼくも、あとからアメリカの軍艦に体当たりして逝くけー」。

まだ生きている、手の届くところにいる母を見捨てて、去年亡くなった

父さんのところへ行け、自分は逃げると言ったのだ。逃れるすべのないことを悟ったのか、母は静かに、

母　「なら、逃げんさい。」（般若心経を唱える）

岩佐　その声に後ろ髪を引かれながらも家から離れた。

S3

コイズミ　今、ご紹介した岩佐幹三（みきそう）さんは、日本原水爆被害者団体協議会の代表委員、顧問を務め、被爆者調査・国の内外の証言活動などに取り組み、２０２０年、亡くなりました。原爆のその爆発時の被害の壊滅的な大きさ、

そして、その後長く続く、放射線の影響。後から家族の捜索や救助のために市内に入った人も、急性放射線障害のために次々と命を奪われました。その年の末までに、広島では１４万人あまり、長崎では7万人あまりの方々が亡くなっています。かろうじて生き残った人々も、原爆による死の不安や、心に受けた傷を抱えながら、その後生きていくことを強いられました

カズミ　ちょっと、ゆあちゃん。まだコイズミ先輩の発表の途中だって。

コイズミ　どうしたの。

ゆあ　あの大変だったってことはわかるんですけど、なんか、ダメっていうか・・・

コイズミ　岩佐さんの体験、すごいもんね。ゆあちゃん、今日はもう帰っても、

ゆあ　そうなんですけど、それだけじゃなくて・・・

マサト　なんか関係ないって、感じなんじゃない。

コイズミ　え。

マサト　っていうか、今の俺たちと遠すぎてさ。

ユウスケ　おいおい、マサト、俺たちは戦後史を勉強している大学のゼミのチームなんだからさ。

マサト　じゃあさ、ユウスケ、なんで、何を？　勉強してるか説明してくれよ。

ユウスケ　歴史から学ぶってことじゃね。

マサト　だから、何をどう学ぶんだよ。戦争は、原爆は悲惨だった、っていうのは分かるよ。それが俺たちと・・・、とにかくモヤモヤするんだよな。

ああ、入るゼミ間違えたかも。

ユウスケ　ええ、じゃあ、やめんのかよ。

カズミ　あんたたち、よしなさいよ。

マサト　じゃあ、カズミ説明してくれよ。

＊LINE着信音。これは電話ではなく。

コイズミ　ちょっと待って。松本先生からLINEきた。

松本　松本です。今日は学会があって欠席で申し訳ない。模擬発表はどうでしたか。もしかして混乱している人もいるかもしれません。そこで、えへん、先回りして、ある人から話を聞けるように段取りました。被団協がなぜノーベル平和賞を受賞したか。話を聞いて考えてみてください。

マサト　被団協？

コイズミ　さっき言ったでしょ。日本原水爆被害者団体協議会。

ユウスケ　何しているところだっけ。

コイズミ　その、ええと、被爆者の証言とか、集めてるところ、かな。

松本　おお、混乱してるな。

マサト　聞こえてんのかよ。

松本　では。

ユウスケ　・・・俺の発表、今度でいいですかね。

コイズミ　そうしましょう。今日は解散。

皆、退場、が。

S4

コイズミ　あ、ゆあちゃん、これ。今日の発表の元ネタの本。（と渡す。）もちろん、読んでも読まなくても。それじゃ。

＊朗読劇なので、みな台本を持っているが、コイズミがこの時まで使っていた「台本」をゆあに渡す演出にした。

コイズミ、退場。ゆあのみ残る。そっと静かに本を開く。

＊劇中歌、「そこに声があれば」のインストルメンタル。

6　5

炭になった弁当　焼き付いた影　止まった時計
そこには暮らしがあった　声があふれて・・・（途中）

ゆあ、本を閉じ、走り去る。学生たち再び登場。

S5

カズミ　ゆあは？

コイズミ　連絡なし。

ユウスケ　来ないんかな。

マサト　やめちまうとか。

コイズミ　彼女が決めることだから。

少し沈黙。破るように。

ユウスケ　ああ、そうだそうだ。この前、俺が発表予定だった「原爆被害に対して日本政府やアメリカが何をしたか」　だけど、やっぱひどいと思ったな。ええと、原爆を開発したマンハッタン計画副責任者のトーマス・ファーレル准将は、東京で海外特派員に「広島、長崎では死ぬべきものは死んでしまい、９月上旬現在において、原爆放射能のために苦しんでいるものは皆無だ」と述べた。

カズミ　それって嘘だよね？

ユウスケ　日本を占領したＧＨＱは、新聞事前検閲を開始、以後原爆報道は影を潜める。で、日本政府は被害者や戦災孤児を見捨てたんだ。

マサト　え？

ユウスケ　救急救護所は、被爆２ヶ月後に閉鎖。被害者は治療もないまま苦しみ続けた。原爆投下からほぼ１０年の間、アメリカと日本政府は、原爆被害

を究明しないだけではなく、隠蔽して、被害者の治療にも当たってこなかった、ってことみたい。

栗平登場。

栗平　政府の姿勢は今も変わっていないの。

コイズミ　あ、もしかして栗平さんですか。

栗平　はい。「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の栗平です。その前は、被団協の事務局員として、調査や活動をしてきました。

コイズミ　今日はありがとうございます。

カズミ　今も変わっていないってどういうことですか？

栗平　そのことを説明するためにも、被爆者たちが、自分達自身で、どんな活動をしてきたか、少し話をさせてください。原爆から十年、この時期に沢山の人が亡くなっていった。そして、各地に散っていった多くの人は知らなかった。自分の具合が悪いのが、原爆の被害であることを。それを知るきっかけはビキニ事件でした。

マサト　ビキニ事件？

S6

＊音楽

＊学生たちは、舞台前面に客席に背を向け座り、話を聞くようにした。以降、何回かそのやり方を使った。

７　アメリカは、戦後９年にあたる１９５４年、太平洋のビキニ環礁で水爆実験をおこなった。

８　広範囲に「死の灰」がふり、マグロ漁をしていた第五福竜丸の乗組員二十三人が被曝。

９　無線長、久保山愛吉さん、四十歳の若さで死亡。最後に残した言葉は、「原水爆の犠牲者は、わたしを最後にしてほしい。」

１０　母親や主婦をはじめ、多くの人が声を上げた。原水爆実験反対、原水爆禁止の署名運動がすごい勢いで全国に広がったの。

栗平

＊音楽。前の曲と乗り替わり、少し高揚感のある音楽にした。

１１

栗平

被爆一〇年の翌１９５５年、原水爆禁止世界大会が被爆地広島で開かれた。大会は原水爆実験反対の署名集計数を、３２１６万７０９筆と発表。その大会の初日、核兵器の被害者を代表して、三人の方が訴えた。そのうちの一人、長崎で被爆された山口みさ子さん。

山口

あの日から１０年、毎日毎日が苦しみでした。・・・この苦しみがみなさんにわかっていただけるんでしょうか。戦争さえなかったら、原爆さえなかったらこんな惨めな姿にはならなかったのです。だれにこの苦しみを訴えて良いかわからずに、何度死のうかと思ったことでしょう。けれど・・・私たちが死んでしまったらだれがこの苦しみを世界に知らせてくれるのですか・・・どうかここにお集まりの皆さん、こういう苦しみをくりかえさぬよう・・・

栗平　原爆の被害が、大勢の前で語られるのは、そして被爆者が語るのはほとんど初めて。それから、全国各地で被爆者の体験を聞く運動が始まり、それは被爆者を探し、組織を作ることにつながり、各地に被害者の会が結成されていった。

カズミ　それが、日本原水爆被害者団体協議会、被団協になるんだあ。

栗平　その通りです。国民的運動の広がりに励まされて、被爆者自ら立ち上がった意味は、とても大きかったと思います。

12　1956年8月10日。日本被団協結成大会宣言。

13　私たちは今日の集まりで亡き人々をしのび、又長い年月のかぎりない思いを互いに語り合いました。しかし、それは決してひとときのなぐさめや、きやすめのためではありませんでした。

14 手をつないで決然と立ち上がるためにほかなりませんでした。世界に訴うべきは訴え、国家に求むべきは求め、自ら立ち上がり、たがいに相救う道を講ずるためでありました。

15 私たちは今日ここに声を合わせて高らかに全世界に訴えます。人類は私たちの犠牲と苦難をまたふたたび繰り返してはなりません。

＊セリフ15は三人で読んでもらった。

S7

ユウスケ　あの、栗平さんは、被団協がノーベル平和賞を受賞したのはなぜだと思いますか？

栗平　そうね。一つは、結成の宣言を胸に、声を集め続けた、声を上げ続けた、声を届け続けた、っていうことだと思います。原水爆禁止運動の分裂もありました。でも、壁にぶつかるたびに、対話を重ねてきたと思います。

カズミ　そうした活動を続けてきて、でも政府の姿勢は今も変わっていないっておっしゃいましたよね。

栗平　政府の戦争責任を問い、国家補償を要求する声が大きくなってきた、それに対して、国は、

コイズミ　１９５７年、原爆医療法施行、１９６８年特別措置法公布。

栗平　あら。

コイズミ　勉強してきました。でも、ちょっとよくわからなくて。

栗平　医療法は、原爆の被害を放射線の被害に限定したし、特別措置法はいくつかの手当を新設したものの、病気や年齢、所得の制限を設けた社会保障制度で、被害への償い、と言えるものではなかったの。

カズミ　それでどうしたんですか。

栗平　１９７７年「被爆の実相とその後遺・被爆者の実情に関する」初めての国際シンポジウムが、日本で開かれることになりました。それに向けて、日本被団協や専門家や市民団体が協力して、「原爆は人間に何をなしたか、人間は原爆に対して何をなすべきか」をテーマに、約４０００人の調査員によって、約８０００人の被爆者の調査が行われたの。「この調査の過程で、調査する側も、調査される側もともに変わった」と言われています。

S8

＊音楽

16　集まった証言から。あなたに声をかけた人がありましたか。その人は助けを求めましたか。その時助けてあげることができましたか。

17　「自分も鬼にならないと生きられない。死体を踏肇（ふみこ）こえて行かなくては。」

18　「子どもが下敷きになっとりました。助けてくれー、いわれるんじゃけど，その声を聞いて，まあ，逃げたようなもんで……。」

１９　「助けてくれえって、あっちでもこっちでもいうのに，人ひとり助けずに、わが身だいじと思ってにげまどったっていうことが、今でも忘れられないですね。何か自分が苦しくて、助けてくれというようなとき、人が黙って行ってしまうという夢をみます。」

２０　「家族，親戚の人に対してではなく、広島で死んだ人に対して、自分だけ生き残って申しわけないと思っている。」

２１　「子供を捨てて逃げました。下に火が来るので恐ろしくなり、後ろ髪引かれる思いで。」

マサト　くそ、親に子供を捨てさせるなよ。

２１・２　「逃げた河原で子供のことだけを思っていたが、泣けなかった。腑抜けのようだった。」

２２　被団協は１９８５年にも大規模な調査を行なっています。

S9

24

「父、母、兄、妹を殺され、遺体もなく、最後どんな様子で死んだのかもわからない。あれから64年忘れられない悲しみ、苦しみを引きずっている。心の痛みにつける薬はない。私もあの時、両親と死んでいた方がよかった、と今でも思う。」

23

「あの時の話に触れると、落ち着かなくなるし、胸が締め付けられて息苦しくなる。無理に話そうとすると、精神状態が変になりそうで・・・。弟の死に様が目に焼き付いている。あの時、呼んでも答えがなかったので逃げたが、ただ気を失っていただけではなかったか。そのことを思うと五臓六腑がヒラヒラと動く。」

いつの間にかゆあが聞いていた。

ゆあ　さっき、「この調査の過程で、調査する側も、調査される側もともに変わった」とおっしゃいましたが、どういうことですか。

マサト　ゆあ。

ゆあ　遅れてすいませんでした。

２５　調査員を務めていた一人です。お答えします。原爆が人間にもたらした被害が、被爆後３０年以上経っても、なお継続、拡大し続けていて、それは健康上、生活上の苦しみにとどまらず、こころにまで終生消えない傷を残している事実を目の当たりにしました。同時に、それほどの苦し

みを乗り越えて生きようとたたかっている人間の姿にも触れることができました。

２６

調査を受けた被爆者の一人です。人に話すのは初めてでした。３０年以上、自分を責めつづけてきました。それが、原爆の生み出した地獄、人間が人間であり続けることを許さなかった、原爆の惨さです。

２７

私たちの証言が、あのシンポジウムの場で共感を持って受け止められたと聞き、生きてきてよかった、生きてきた意味があった。初めてそう思えましたのです。

ゆあ

（証言者たちに向かい）ありがとうございました。（栗平に）続けてください。

S10

栗平　こうして、日本被団協や市民団体は、「あの日」と「その後」に原爆が人間にもたらした被害を聞き取り、国内外の人達に伝えてきました。核兵器の廃絶と被害者への国家補償をさらに強く訴えてきました。

マサト　すいません。国家補償って、やっぱりどうしてもお金欲しいってことじゃん、って思えちゃうんですけど。

栗平　戦争を始めて、その結果、原爆被害をもたらした国が責任を取るっていうのは、ごめんなさい、戦争はもう二度とやりません、って言って、被害を償います、ってことじゃないかなあ。

コイズミ　ごめんなさい、もう二度とやりません、そして償います、か。

栗平　みなさんは、岩佐さんの体験を勉強したと聞きました。その岩佐さんはこう書かれてます。

岩佐　国家補償とは何か。私に言わせれば、国が国民に対して、再び戦争の被害、再び被爆者をつくるようなことはしません、ということを約束することです。そこまでいかなければ、国家補償を唱える意味がありません。

カズミ　国家が戦争しないための、縛り、みたいなものってことか。

栗平　被団協は、国家補償の精神に立った「原爆被害者援護法案のための要求骨子」、要点、骨組みみたいなものね、をまとめ、これに基づく法案を全野党が共同して何度も国会に提出した。こうした運動の盛り上がりに対して、１９８０年「原爆被爆者対策基本問題懇談会」が意見を出したの。

ユウスケ　え？　長い名前だなあ。

栗平　国が各界の有識者を集めての懇談会。ちゃんと話し合って、被爆者対策のことを考えましたよ、で答えがこれですって。

コイズミ　その答えは？

栗平　国家補償は拒否されました。それが受忍論。

マサト　だめだ、またわかんない。

栗平　受けて、忍ぶと書いて。受忍です。

＊映像　受忍論

カズミがスマホで検索していた。

カズミ　耐え忍ぶこと、被害を受けても我慢することなどを意味する表現。

S11

28

およそ戦争という国の存亡をかけての非常事態のもとにおいては、国民がその生命、身体、財産等について、その戦争によってなんらかの犠牲を余儀なくされたとしても、

29

それは国をあげての戦争による「一般の犠牲」としてすべての国民がひとしく受忍しなければならないところであって・・・以下省略。

栗平

「原爆地獄」のなかでのむごい死や、被爆者ゆえの不安と苦しみに満ちた人生。しかしそれは国をあげてやった戦争のためなのだから、仕方が

ない、それを我慢しろというのです。それから、およそ戦争の、およそっ
て言葉。

ゆあ　私も、それなんか引っかかって。どういう意味ですか。

カズミ　ちょい待ち。（検索して）普通。ひととおり。一般的、例外なく。

マサト　じゃあ、どうなるの。

栗平　過去における原爆被害だけでなく、現在、未来にわたって、どの戦争で犠牲を強いられたとしても、国をあげての戦争なのだから、国民は我慢しろ、受忍しなさい。

ゆあ　憲法で戦争放棄しているのに！

マサト　ちょっと待って。

コイズミ　どうしたの？

マサト　ええ？　ちょっと待ってよ、混乱してるかも。
カズミ　考え決まってから喋りなよ。
マサト　いや、つまりさ、俺？
ユウスケ　俺？
マサト　俺もさ、戦争になったら我慢するの？　死んじゃっても？　さっきから話を聞いてたみたいにあんなひどいことがあっても。ねえ、そうなの？
じゃあ、
ゆあ　原爆の話って歴史の話じゃなくて、今の私たちの話、なんですね。

戦争の音が聞こえ始める。

＊現代の戦争を想起させたくオスプレイの音、やがて戦闘音を使用した。

S12

30

31

これから起きる戦争さえも受忍論で括られる。何より戦争の可能性を国が示した。被団協や市民、法律家、多くの人が怒りを持って、動いた。「ふたたび被爆者をつくらない」ノーモア・ヒバクシャ。この道筋として、

＊以下、台詞に合わせて映像。

核戦争起こすな、核兵器なくせ

原爆被害者援護法制定を今すぐに

原爆被害者の基本要求

３２　「核戦争起こすな、核兵器なくせ」
３３　「原爆被害者援護法の制定を今すぐに」

＊３２、３３は三人で言ってもらった。

３４　この二つを掲げた「原爆被害者の基本要求」が生まれました。被爆者が国連を始め世界で訴えたことが国際世論を動かし、２０１７年、核兵器禁止条約が国連で可決。

栗平　しかし、今、この時、世界から核兵器は無くなっていません。

Ｓ１３

＊照明は全面を赤く、まさに原爆の音を使用。

原爆の音が再び響く。少し間があって。学生たち、冒頭のように模擬発表をしているようでもあり、何か考え込んでいるふうでもあり・・・

コイズミ　２０２５年は、広島長崎への核攻撃、原爆投下から８０年の大きな節目の年です。

カズミ　この人類未曽有の惨禍を被爆者自身が受け止め、核兵器の廃絶を求めてきた日本原水爆被害者団体協議会、被団協にその前年ノーベル平和賞が授与された。

ユウスケ　ノーベル賞委員会、ヨルゲン・フリードネス委員長による受賞理由は、「被団協が世界に向けて訴えてきた「証言」こそが、８０年近く核兵器が使用されてこなかった「核のタブー」を生み出した。」から。

マサト　・・・受忍論をいやだって言いたい。原爆いやだ核兵器いやだ、戦争いやだイヤダイヤダ。

ゆあ　しかし、今や世界は危機的状況に陥っている。ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、ウクライナへの侵攻前後から、核使用を辞さないと脅しをかける。

ユウスケ　イスラエルはガザ地区への核攻撃を示唆。

コイズミ　アメリカは、国連総会で、ロシアのウクライナ侵攻を非難する声明に反対票を投じた。

ゆあ　こうした事態の中で、ヨーロッパの各国はじめ、世界も日本も大規模な軍備拡張に向かっている。ヨルゲン・フリードネス委員長は、

フリー　核のタブーは、核兵器使用は、道徳的に容認できないという相互的・集合的合意、およびその規範を破ることで、人類に待ち受ける深淵に対する共通の恐怖によって維持されています。しかしながら、このタブーは脆く、特に時が経つにつれて、より脆く崩れ去る恐れもあります。

コイズミ　私怖い…

ユウスケ　え。

コイズミ　戦争やりやすい感じになってる気がして。

カズミ　わかる。核兵器だって、使ったらまずいから使わないだろうって感じしないもの。

コイズミ　どうしたらいいんだろう。

マサト　でも俺さ、今でも被爆者の人達の気持ちとか、声も残せず亡くなった人の思いとか、やっぱりわからなかったりする。

カズミ　あんたね。

マサト　でもさ、それが、自分のこととか家族とか友達とか・・・ゆあ、そうだろ。

ゆあ　はい。

カズミ　なに？

ゆあ　自分はどうなりたいか。今、どうこの社会にいたいか。

マサト　ああ、そうかも。

ユウスケ　俺はそこにとどまりたくないな。なんかさ、自分がよりよく生きるって言うよりも、いい世の中になった方が、俺はいい。

マサト　じゃあどうすんだよ。

ユウスケ　それは…わからない。核兵器だって絶対ない方がいいけれど、なくなったら「核の傘」っていうのもなくなるだろう。それで大丈夫かどうなのか。わからないんだ。

コイズミ　そのために知らなきゃいけないんじゃないかな。

マサト　え。

コイズミ　もっと広島のことも長崎のことも。

S14

また栗平が登場していた。

コイズミ　栗平さん。

栗平　はい。

コイズミ　栗平さんは、たくさんの被爆者の方と寄り添って話を聞いてこられて。一番学んだことっていうか…

栗平　一言で言うのは難しいけど、でも…、私はやっぱり人間ってどういうふうに生きるものなのかなってことだと思う。あの、それは、抽象的なあれじゃなくて、具体的なこの社会で、この世界で…特に核兵器というね、ものが登場してしまってね、その核兵器を否応なく体験させられちゃった被爆者たちが（少し沈黙）、じゃあそういう時代に、本当に人間が生きていけるにはどうしたらいいのか。人間が人間らしく。さっきの話。目の前で苦しむ人を助けられなかったり、そういう苦しみを、一生持ち続けてきたわけだから、それを、そんな体験をだれもしなくていいよう

に、人間が人間として当たり前に生きられる世界にしたい。そういう世界を・・・、子どもや孫に残したいと思って生きている。

マサト　よくわかんなかったけど、すごくよくわかった。

ユウスケ　何いってるんだか、わからん。

マサト　俺は、当たり前に生きて、だから核兵器で殺されない。被爆者にもならない。そのためにどうすればいいか、これから考える。

ゆあ　私は、殺したくもないです。

マサト　え。

ゆあ　「核の傘」の下にいる日本が攻撃されて、攻撃した国に核が使われたら。

ユウスケ　アメリカが。

ゆあ　それは、私たちが核兵器を使ったってことじゃないですか。私、殺したくもないし、殺されたくもないです。

マサト　どうすればいいんだろう。

コイズミ　声にしてみよう。

ユウスケ　え。

コイズミ　思ったり考えたりして。

ユウスケ　そして、それを声にしていく。

マサト　シンポジウムでも、飯食いながらでも、ＳＮＳでもなんでもいいか。

ユウスケ　まずはそれだな。

カズミ　でも、その前に、今、ここにある被爆者の声をもっと知らなきゃ。

ユウスケ　そりゃそうだ。

コイズミ　本もいっぱい出てるし、ホームページにだってたくさんある。

カズミ　ヨルゲン・フリードネス委員長、挨拶でこんなこと言ってる。

フリー　被爆者の人たちの証言について。「彼らの個人的な体験談が、歴史を人間的なものにしてくれます。彼らは「そこにいた人たち」と「歴史の暴力に触れていない私たち」との橋渡しとなり、その距離を縮めてくれるのです。彼らはまさに問題の深刻さ、何が危機に瀕しているのかを思い起こさせてくれる存在なのです。

松本　どうも松本です。

学生たち　うわ。

松本　課題はどうですか。あ、提出は来週よろしくお願い。

マサト　間に合うかよ。

コイズミ　そうよ。

ユウスケ　そうです。

カズミ　時間が必要です。

ゆあ　先生、私たちはようやくスタートラインに立ったんです。

松本　いいじゃないか。何度でも書き直せば。それじゃよろしく。

学生たちの裡から声が溢れてくる。

マサト　読んでみよう。

コイズミ・ゆあ　話してみよう。

マサト・コイズミ・ゆあ・ユウスケ　聞いてみよう。（証言者たちに）すいません。話聞かせてください。

S15

学生たちが証言者に話しかける。それぞれ話の輪が広がる中、栗平が現れる。何か資料を持ってきているようだ。学生たち1冊ずつ受け取る。読み始める。

＊以下、鉤括弧は資料のタイトル。

コイズミ　「被爆者からあなたに　今、伝えたいこと」　核兵器禁止条約が２０２１年1月２２日に発効しました・・・

マサト　「原爆被害者の基本要求　ふたたび被爆者をつくらないために」　原爆は、人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許しません・・・

ユウスケ　「被爆者として言い残したいこと」　若い学生たちが、次々と命を落としていった現実。国のためとは何だったのか。（違うページ）二度と戦争をしてはならぬ。この言葉が総て・・・

カズミ　「証言活動のしおり　被爆者の願いを人類の記憶に刻み込むために」
広島・長崎よりも、もっとおそろしいことが起きる。それは、世界の
人々がヒロシマ・ナガサキの出来事とその教訓を忘れるときです・・・
ゆあ　「そこに声があれば　今　未来に」　（歌い出す）炭になった弁当　焼
き付いた影　止まった時計

歌が始まった。やがて「声」は一つの歌になっていく。

そこに声があれば　　歌詞　山谷典子　作曲　高崎真介

1　炭になった弁当　焼き付いた影　止まった時計
　そこには暮らしがあった　声があふれてた

どこに声があった？
青空の下に

8月6日のあの子　9日のあの子
長い時間あきらめず　コツコツ集めた　たくさんの記録
そこには過去に触れられる　声があふれてる

そこに声があるよ
耳傾けよう
そこに声があるよ
ページを繰ろうよ

＊それぞれの資料などの映像を間奏中に映した。

2

当り前の暮らしは　祈りと歩み　足元にあり
二度と戦争にしない　声で作られる

声を見失えば
歩みは途切れる

被爆者たちの声は　世界に広がり
核兵器と人類は　共存できない　させてはならない
生き延びるための真（しん）の道　声があふれてる

そこに声があれば
バトンをつなげる
一筋の光は
過去から繋がる

＊後奏の最後に映像、そこに声があれば　今　未来に

終わり
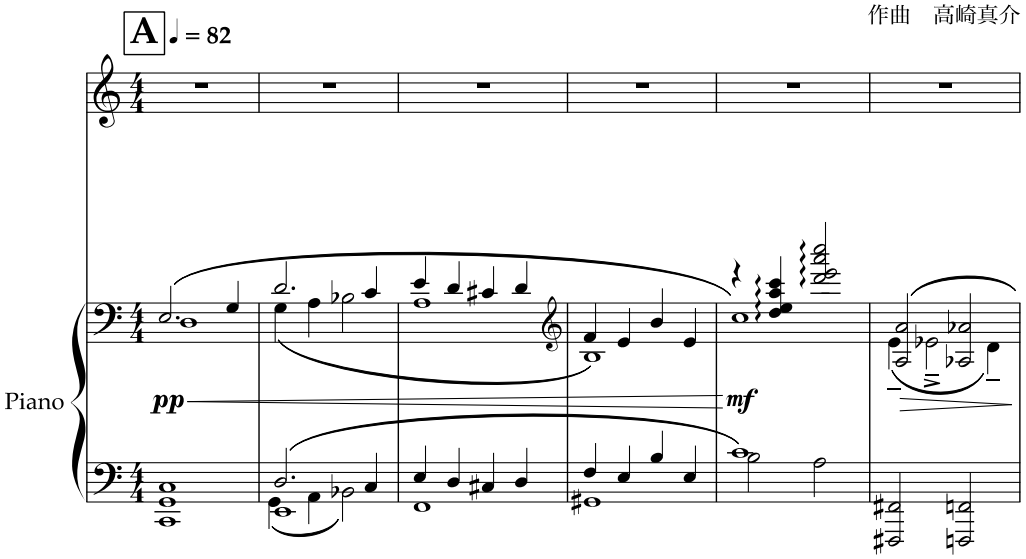
台本協力　栗原淑江

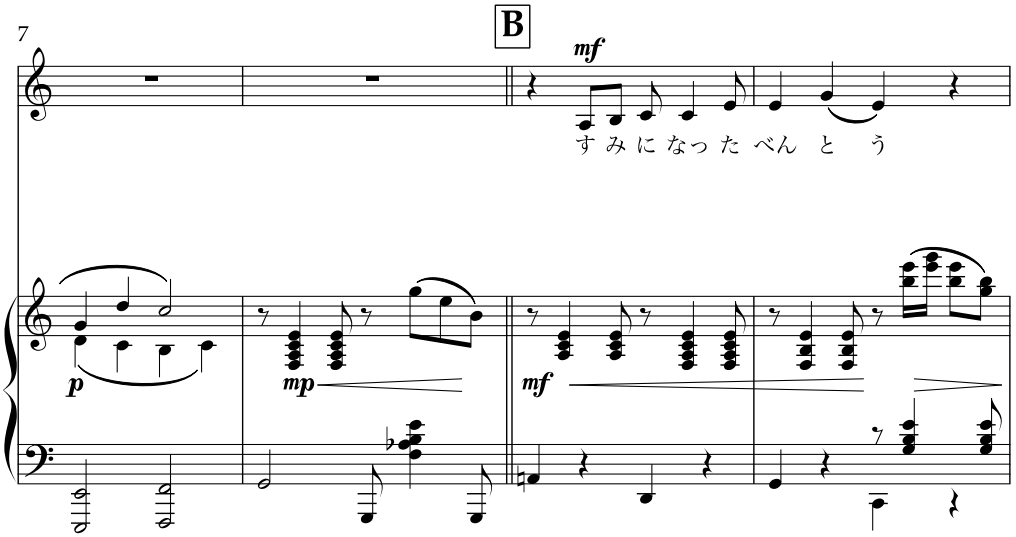
福山啓子
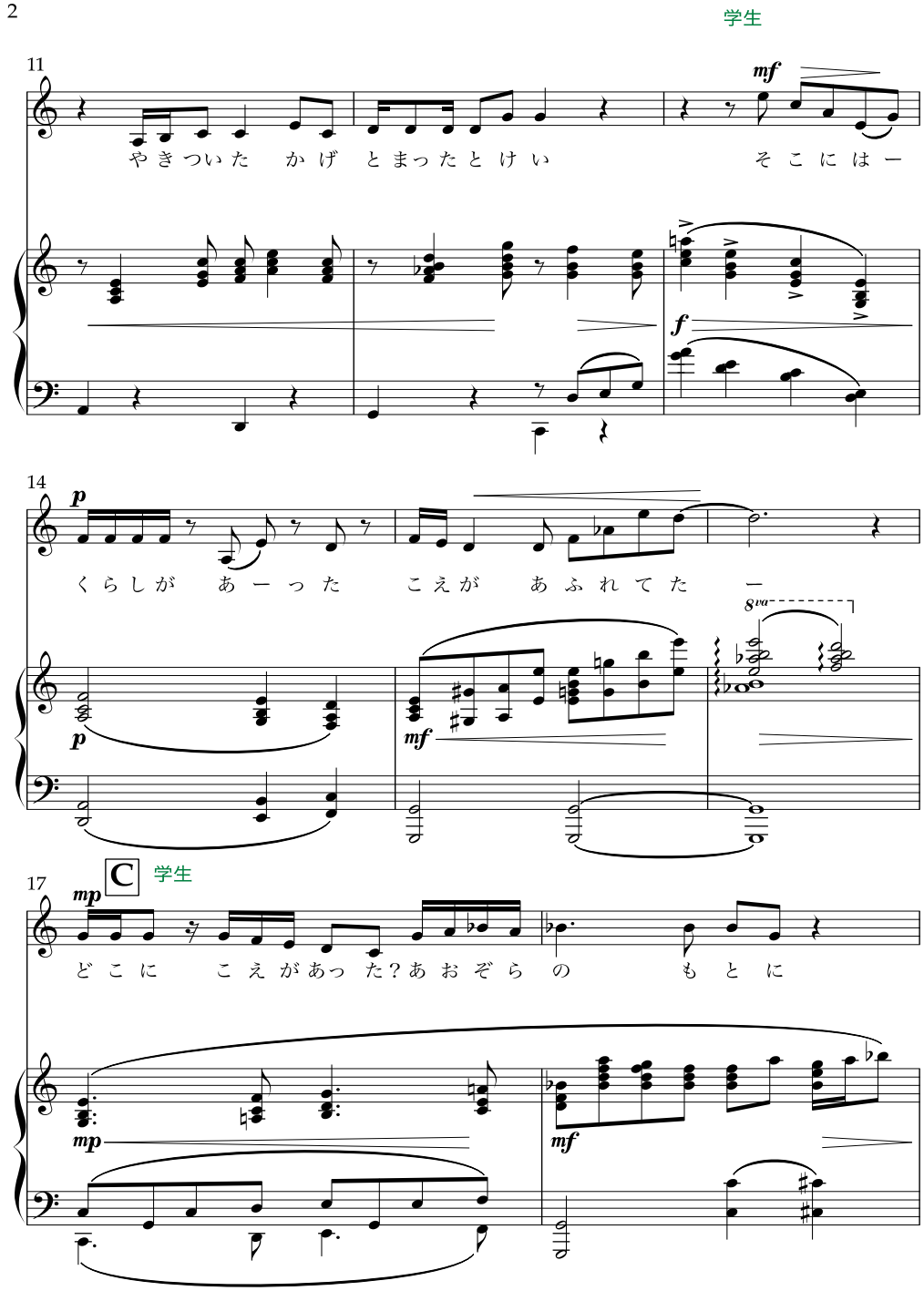
山谷典子
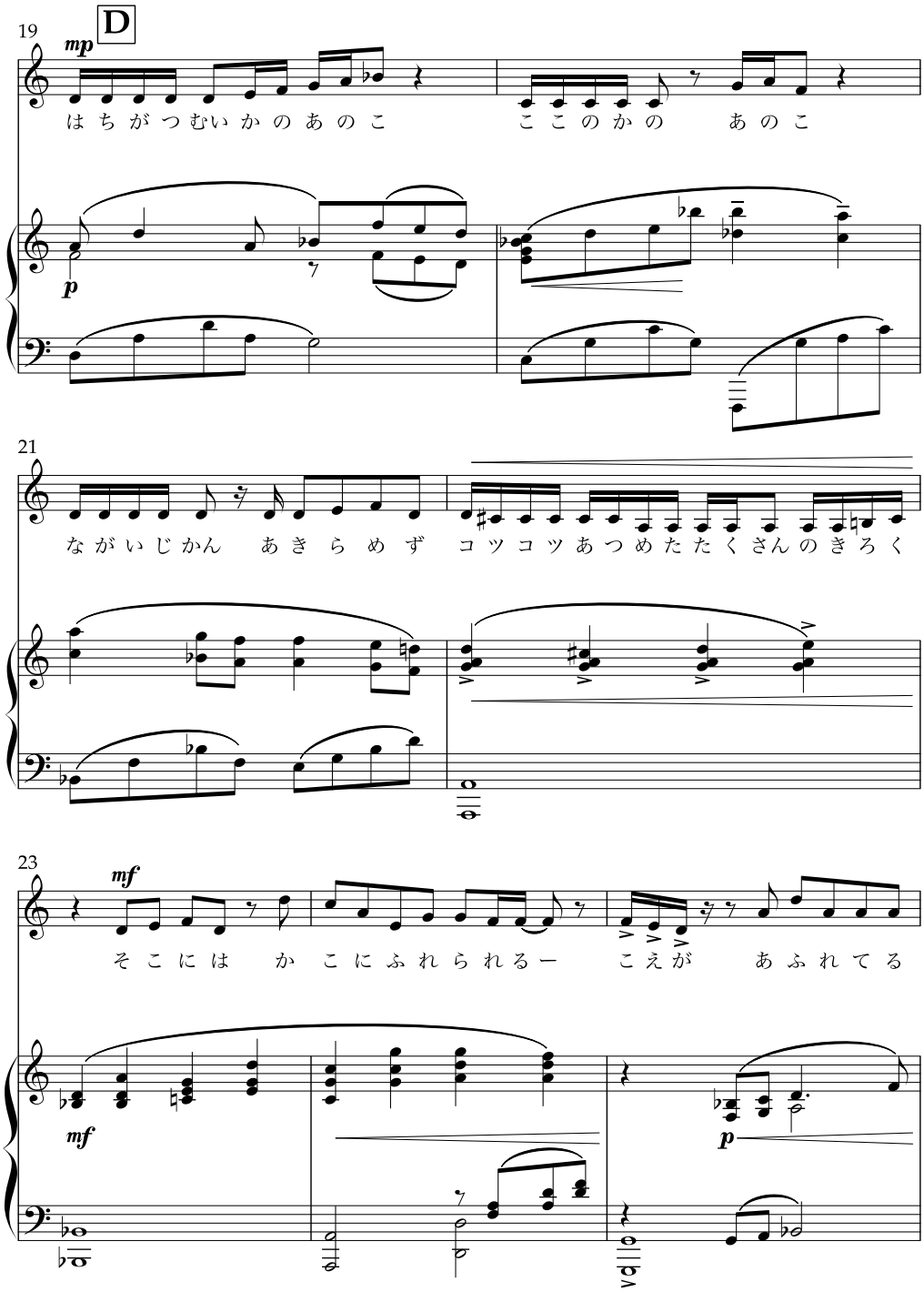
そこに声があれば
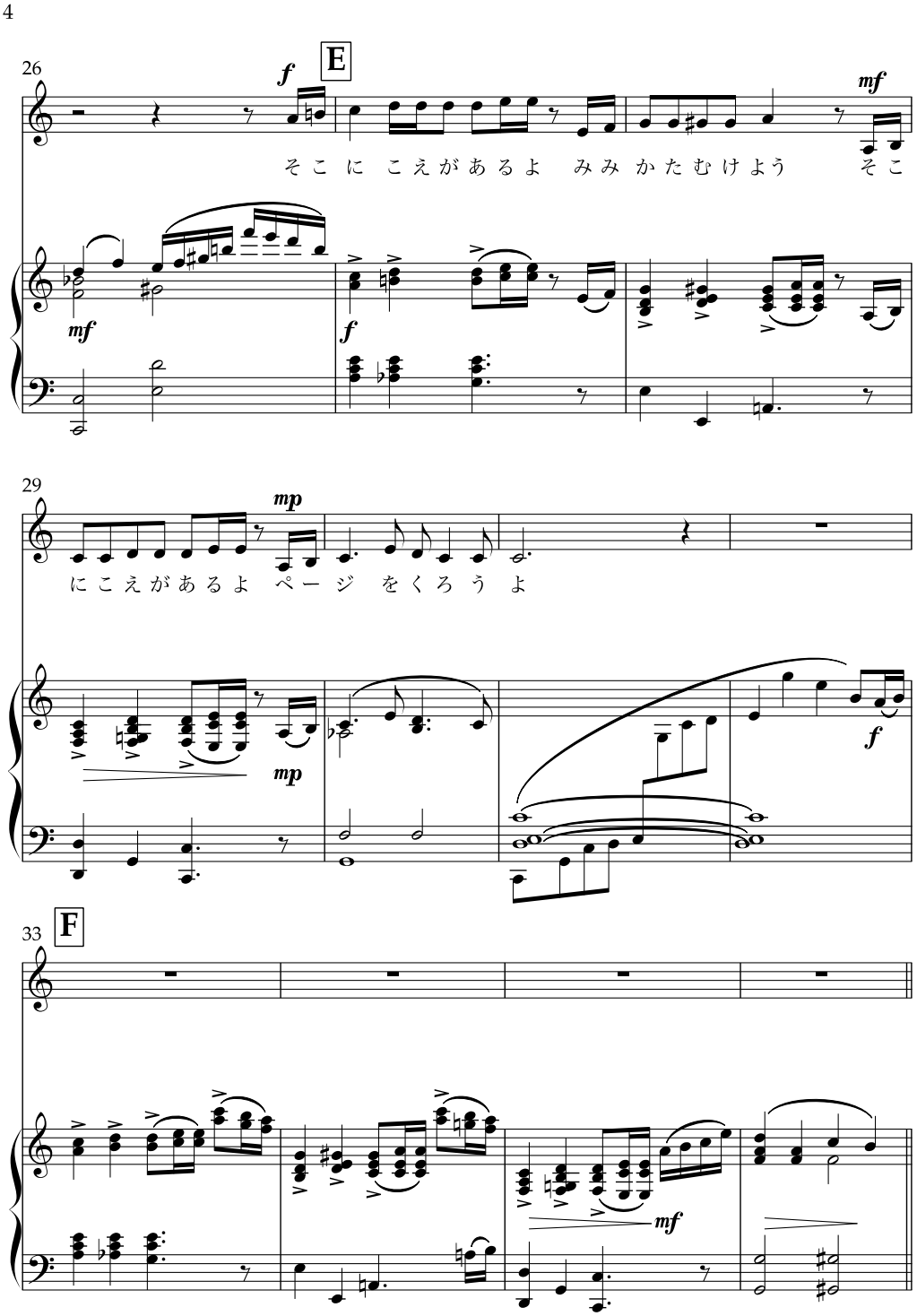
作詞　山谷典子
作曲　高崎真介
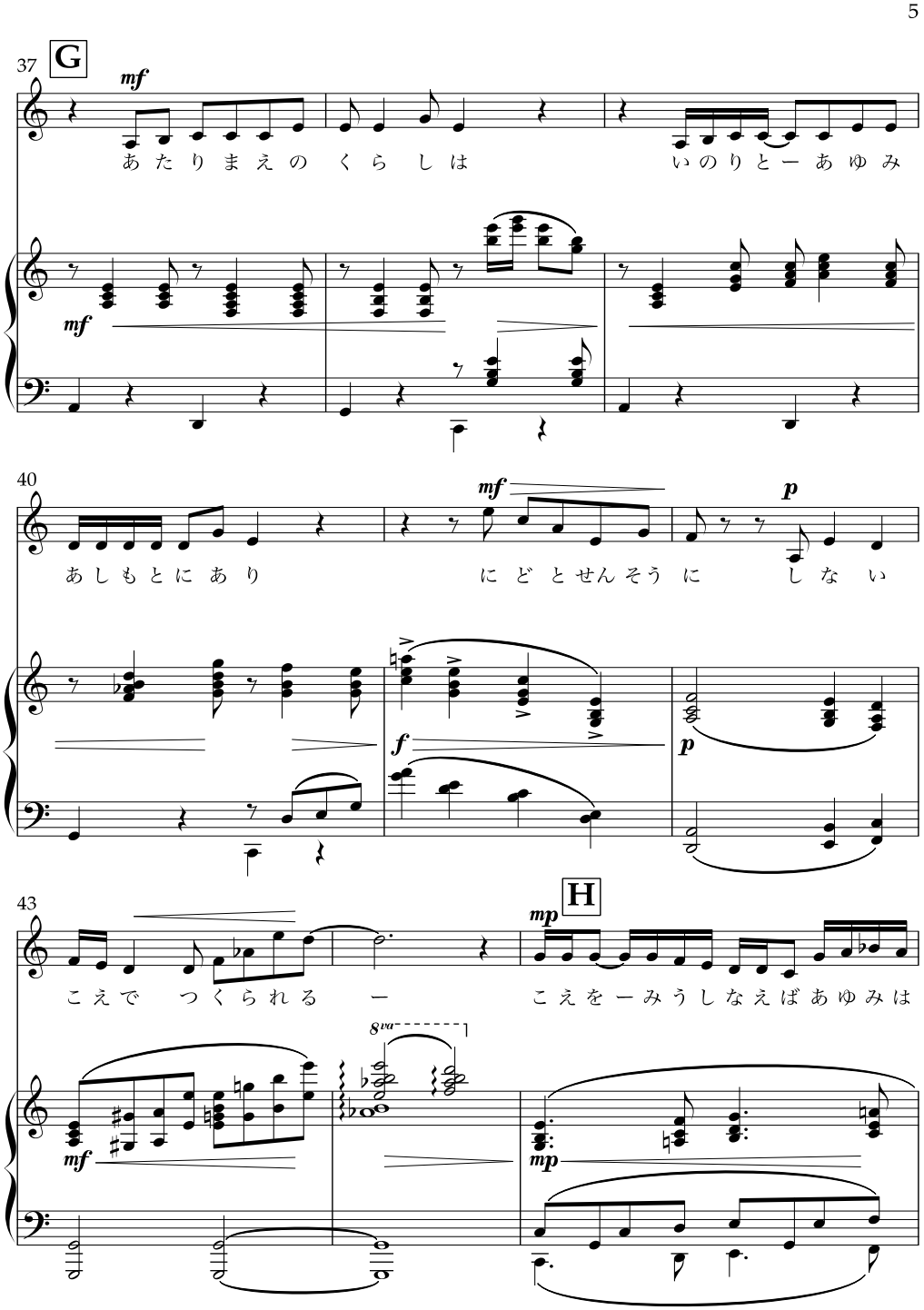


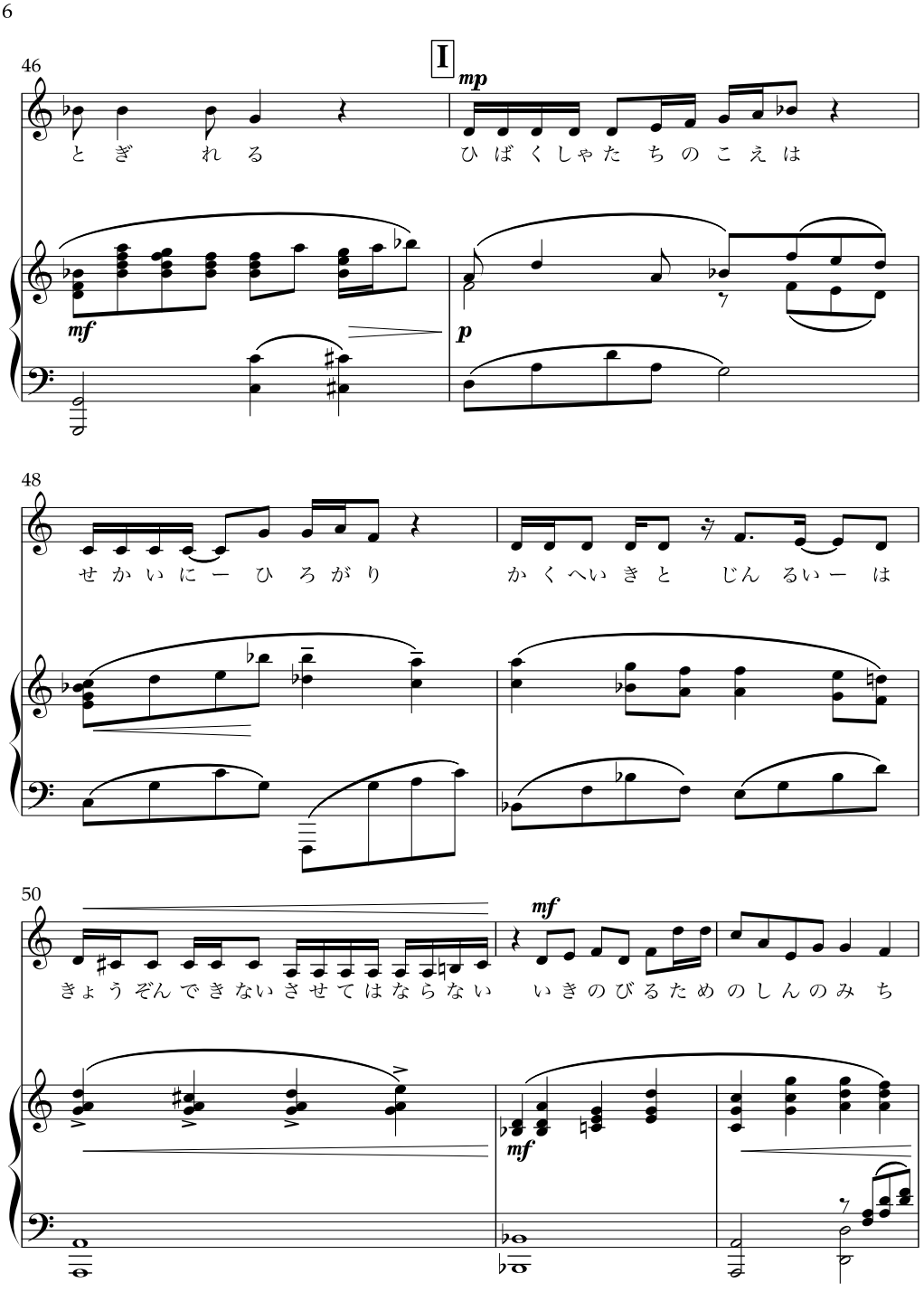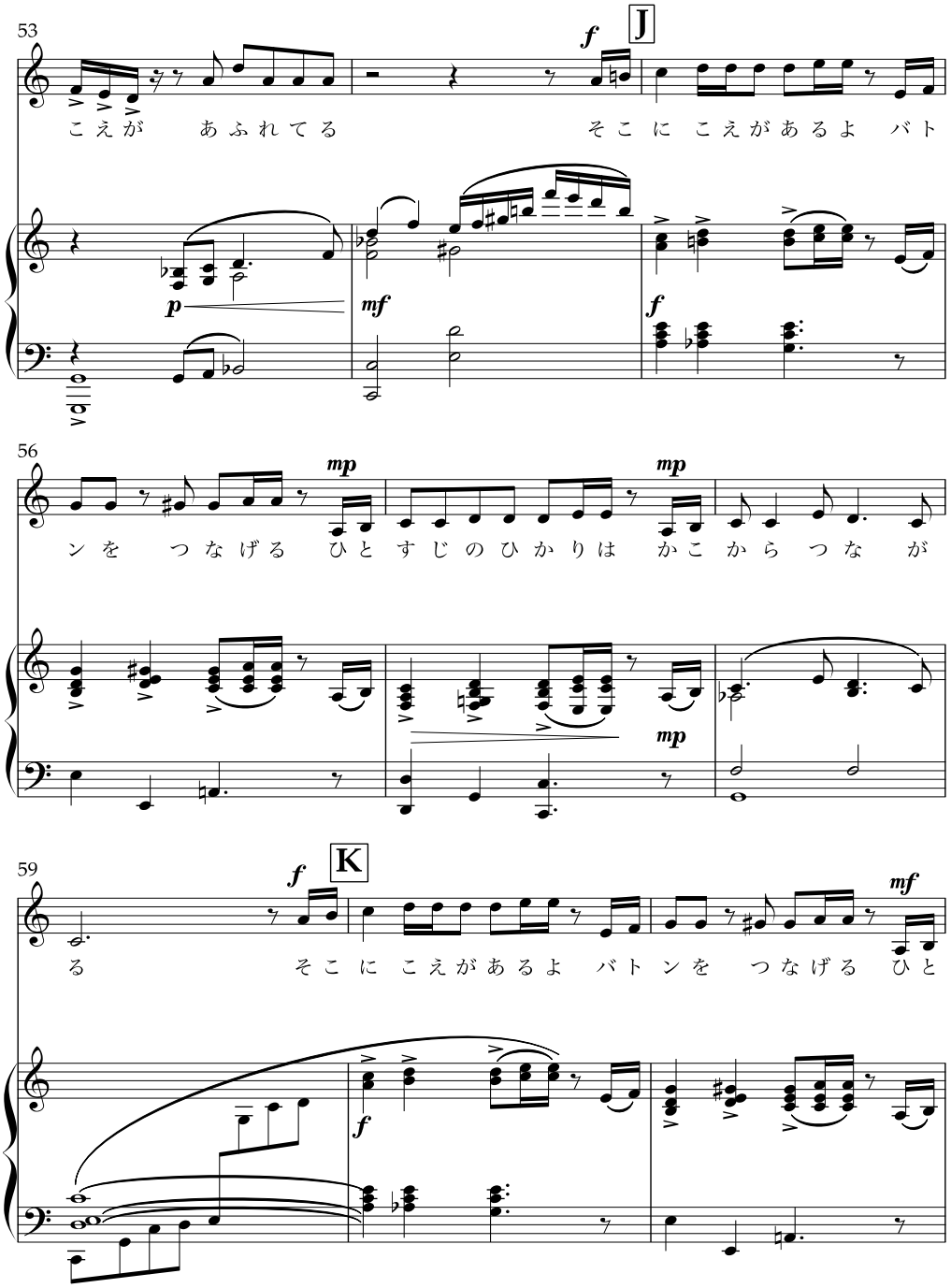



2
学生
11
mf
やきついた かげ とまったとけい そこにはー
f
14
p
くらしが あーった こえが あふれてた ー
8va
mf
17
C
学生
mp
どこに こえがあった？あおぞらの もとに
mf


19
mp
D
はちがつむいかのあのこ
ここのかの あのこ
p
21
ながいじかん あきらめず コツコツあつめたたくさんのきろく
23
mf
そこには かこにふれられるー こえが あふれてる
mf
p

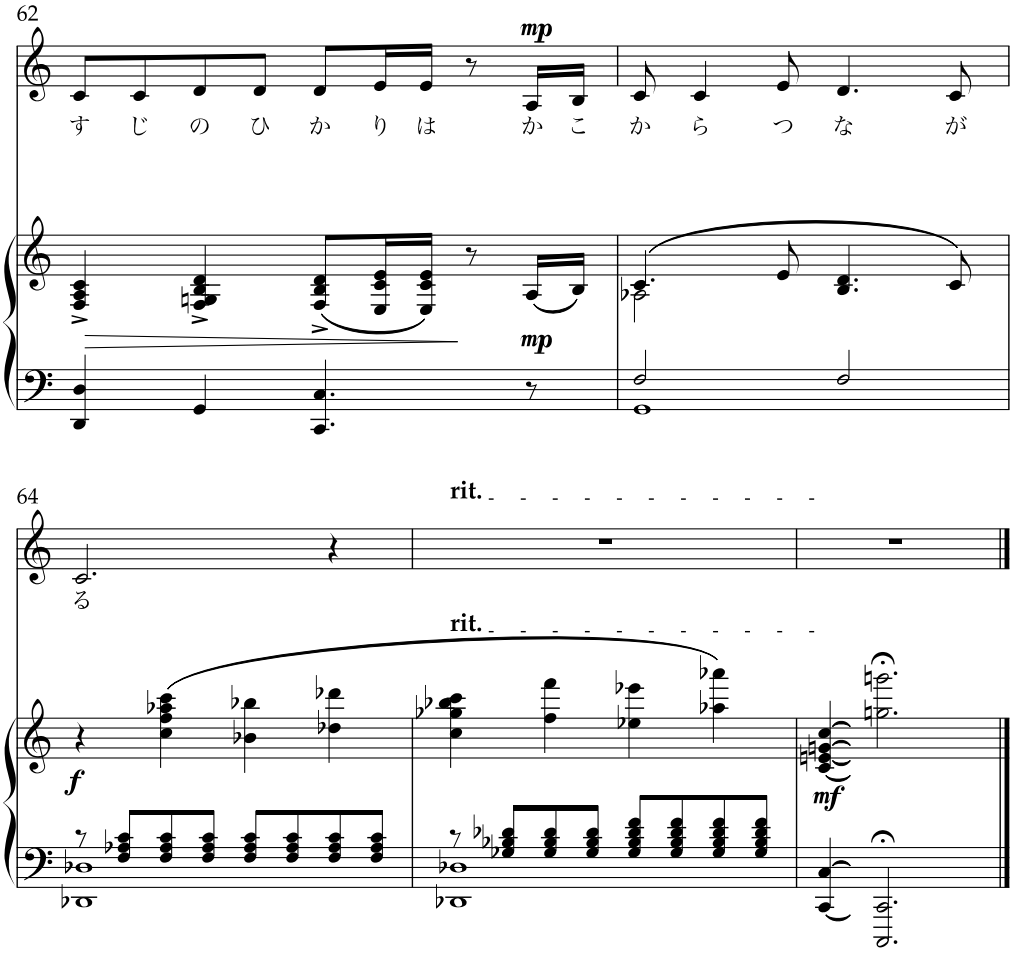

4
26
E
f
mf
そ こ に こえがあるよ みみ かたむけよう そ こ
mf
f
29
mp
にこえがあるよ ペー ジ をくろう よ
mp
f
33
F
mf


5
37
G
mf
あたりまえの くらしは
いのりとー あゆみ
mf
40
mf
p
あしもとに あり
にどとせんそうに しない
f
p
43
H
mp
こえで つくられる ー
こえをーみうしなえば あゆみは
8va
mf
mp


6
46
I
mp
とぎれる
ひばくしゃたちのこえは
mf
p
48
せかいにーひろがり
かくへいきとじんるいーは
50
mf
きょうぞんできないさせてはならない
いきのびるためのしんのみち
mf


53
こえが あふれてる
f
J
そこにこえがあるよ バト
p
mf
f
56
ンを つなげる
mp
ひとすじのひかりは
mp
かこからつなが
mp
59
る
f
K
そこにこえがあるよ バトンを つなげる
mf
ひと
f

8



2025年　9月15日

○主な引用・参考文献

「原爆被害者の基本要求―ふたたび被爆者をつくらないために―」　日本原水爆被害者団体協議会

「証言活動のしおり」　日本原水爆被害者団体協議会

「日本被団協６０年の歩み」　日本原水爆被害者団体協議会

「被爆者からあなたに　いま伝えたいこと」　日本原水爆被害者団体協議会編　岩波ブックレット

「ヒバクシャの心の傷を追って」　中澤正夫　岩波書店

「被爆者の人生と対話する人々」2021 年　編集・発行　立教大学社会学部　小倉康嗣研究室

「原爆をまなざす人びと」　松尾浩一郎・根本雅也・小倉康嗣　新曜社

「核抑止論の虚構」　豊下楢彦　集英社新書

「ノルウェー・ノーベル委員会　ヨルゲン・ヴァトネ・フリードネス会長によるスピーチ」
https://www.nobelpeaceprize.org/getfile.php/137203-1733759781/_Dokumenter/Presse/2024/Joergen_Watne_Frydnes_Speech_Japanese_translation.pdf

「日本原水爆被害者団体協議会」ホームページ　http://www.ne.jp/asahi/hidankyo/nihon/

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」ホームページ　https://www.nomore-hibakusha.org

著作権 © The Nobel Foundation, Stockholm, 2024.

「昭和女子大　学生プロジェクト　戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」
https://slabo.swu.ac.jp/projects/2018-sengosi.html

「広島平和記念資料館は問いかける」　志賀賢治　岩波新書
「原子力　その神話と真実」　リチャード・カーチス／エリザベス・ホーガン
訳＝高木仁三郎・近藤和子・阿木幸男　紀伊国屋書店
「被曝の世紀　放射線の時代に起こったこと」　キャサリン・フィールド　訳＝友清裕昭　朝日新聞社

＊１８ｐの山口みさ子さんの発言は、「放送文化資産」としてＮＨＫアーカイブスで視聴できます。
https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=C0110596&column=hidden

＊他、多くの文献、web サイトを参照し、また「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の栗原淑江さんはじめ、多くの方々にお話を伺いました。感謝いたします。（丸尾）

○初演上演記録

「核兵器も戦争もない世界を求めて～記憶を受け継ぎ未来へ～」　ホール企画として上演。
２０２６年１０月１１日（土）　有楽町朝日ホール
脚本・演出／丸尾聡　劇中歌　歌詞／山谷典子　作曲／高崎真介

出演

コイズミ／小泉美果（青年劇場）　マサト／中川隆太　ユウスケ／城戸啓佑（インボイス制度を考える演劇人の会）
カズミ／山西未紗（ワイズプロダクション）　ゆあ／櫻井優凛　栗平／西山水木　岩佐幹三／龍昇（龍昇企画）
母／重田千穂子（テアトル・エコー）　男・松本／吉村直（青年劇場）　山口みさ子／崎田和子（東京芸術座）
ヨルゲン・フリードネス／渡辺克己
「証言者」やほか大勢の人々／浅倉いづみ、斎藤とも子（アニマ・エージェンシー）
関根麻帆、田中美樹（日本生協連）　橋本舞（ピースボート）、廣瀬綾、松村真澄（ピースボート）

スタッフ

照明／阿部康子　音響／山崎哲也　舞台監督／佐瀬 佳明（劇団ぱれっと）　舞台監督助手／たかのきよこ（東京芸術座）
台本協力／栗原淑江　福山啓子　山谷典子

本戯曲は、著作権法によって保護されています。上演、集会、勉強会などでの使用は、原則無料としますが、

「使用のﾞﾚ案内」をお読みいただき、許諾を得てください。

連絡先　記憶をつけつぐ演劇人の会）
keisyouengeki@gmail.com

使用のﾞﾚ案内

日本被団協ホームﾟﾍﾟｰｼﾞ
http://www.ne.jp/asahi/hidankyo/nihon/

NPO 法人　ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
https://www.nomore-hibakusha.org/